

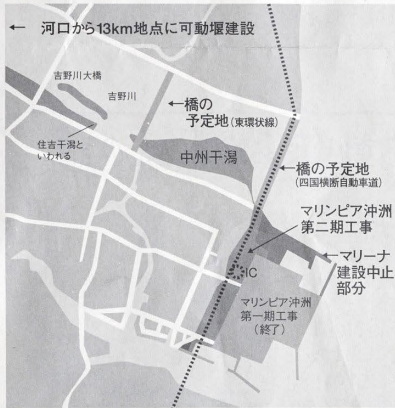
大正15年(1925年)の吉野川(別宮川)河口付近



- ① 大岡浦の集落
道の両側に移動して来た家が並んでいるようすがよくわかる。
- ② 旧堤防があったところ
今でも干潮の晴れた時には川面から石垣の一部を見ることができるといふ。
- ③ 大岡浦の人々が移転前に住んでいたあたり
- ④ 当時の農地
- ⑤ 沖洲海岸の松原
村の東のはずれからよく見えたという松原。現在でも一部が残っている。



現在の吉野川河口(略地図)



●印が旧大岡浦(現.住吉6丁目)

沖洲海岸の先に工業団地
マリニピア沖洲が建設され、川の形状もかなり変わっている。干潟も「若い頃に比べて1/3くらいになった。」(今津さん)という。
マリニピア沖洲は一部が建設中止になったとはいえ、第二期工事計画が進行中である。さらに沖洲海岸を埋め立てその上を四国横断自動車道を通し、吉野川河口に道路橋をかける計画と河口1.7km地点に東環状道を今後、このあたりの地形変化

通す大橋をかける計画が同時に進行中である。が予想されると共に、干潟や海岸の生態系や影響も大きいと言われている。

参加者の感想など

- かどうしたこと。昔は今津さんの家から沖洲海岸が見えたと聞いたこと。今の沖洲が2つめの沖洲だかという話。昔はよくこうだったかあったこと。
- 今津さんのあいつちゃんの家は昔、現在では川の中になっ、ているところにあった。昔の沖洲を川の上から見てみたいと思った。今日は、とっもたのしか
- 干潟の観察会には、何度か参加していますか。そのうち近くにすうと川や田んぼとかかわって来た人の暮らしがあったのだから、鼻に匂つかせていたな、いい、よかったと思います。

- 住吉に最近まで16年あまり住んでいました。マンションや商店が建ち並び、大勢の人の生活を抱えている街も、30年前には3層、たんならば...この辺は...と、よくなりました。
- 過去へ。干潟を持って各社は立つ自分を、3層でワザヤカモノにまきれて、いる自分をワフッさせる。
- 未来へ。...、みんなどこで立つ? そんなとこに立ちたい? 昔から今、そしてこれから。3層はワフッさせながら、この、こ、こからを誘え、ついにいられない、そんなからンワザヤカモノ、でした。

INFORMATION

とくしま自然観察の会 とは

誰でも気軽に参加してもらえる観察会を通じて、身近な自然を楽しみながら、徳島の自然を見たり、発見したりしようと、1994年、4月に発足しました。吉野川河口や城山を主なフィールドとして自然観察会を行なっています。

- 「しまなみブック」のお問い合わせはとくしま自然観察の会までお願いいたします。
- この印刷物についてのお問い合わせは下記までTEL、FAX、〒 (長瀬陽子)

吉野川河口干潟を知りたいには...これ!



発行: とくしま自然観察の会
金額: 500円
A5版、カラー印刷

何ですか?
シマナミ...
000

参加者全員
あいつちゃん
と国たんの
14.4.27

